



国土交通省

高田河川国道事務所

記者発表資料

平成29年11月1日
配布：上越記者クラブ
扱い：配布後解禁

関川において平成7年の『7.11水害』以降最大の出水となりました ～平成29年10月22日～23日 台風21号～

関川において平成7年の『7.11水害』以降最高の水位を記録しました。
～平成29年10月22日発生[台風21号]関川・保倉川・姫川出水の対応～

○平成29年10月22日から23日にかけて、台風21号の影響により新潟県内では大雨となりました。高田河川国道事務所が管理する関川・保倉川(上越市)においては避難判断水位を超過し、また姫川(糸魚川市)においては氾濫注意水位を超過する出水となり防災体制を発令し対応にあたりました。

○特に保倉川佐内水位観測所(国)では、住民避難の目安となる「避難判断水位」を11時間以上超過する危険な状態が続き、また、遊水池外水位(県)の水位が氾濫危険水位を超過したため、上越市から沿川住民へ「避難指示」が発令されました。

○また高田水位観測所(国)においては、甚大な被害があった平成7年の『7.11水害』以降最高となる水位5.75mを観測し、上越市から「避難勧告」が発令されました。

○上記の他、今回の高田河川国道事務所の対応・治水事業の効果についてとりまとめを行い、当事務所ホームページに掲載しましたのでお知らせします。

<http://www.hrr.mlit.go.jp/takada/river/syussui-sokuhou/291022-1023.pdf>

【出水概要・出水対応の主なポイント】

- ・今回の台風21号における関川・保倉川流域の雨量は、(関川)赤倉雨量観測所で累加雨量242mm、(保倉川)菖蒲雨量観測所で累加雨量230mmを記録しました。平成7年の『7.11水害』よりも多い雨量となりましたが、今回の出水は長期的な降雨により緩やかに水位が上昇しました。
- ・今回の出水で上越市内の内水氾濫を軽減させるため、北城町1丁目にある水戸の川排水機場(平成14年完成)が約9時間稼働し、約64,500m³(25mプール(25m×11m×1m)235杯分)もの水の量を関川本川へ排水しました。
- ・関川沿川では内水による浸水が確認(現在、調査中)されましたが、高田河川国道事務所、上越市消防団などの連携による排水活動で、浸水被害を軽減させました。
- ・関川・保倉川では平成7年の『7.11水害』を受け、直轄及び県管理区間において河川改修を進めてきました。河川改修前の河道と改修後の河道を比較すると今回の洪水では、高田水位観測所地点において約0.5mの水位低減(速報値)が確認され、氾濫危険水位を超過しませんでした。

お問い合わせ先

- 副所長(河川) 池田 博明 TEL: 025-523-3136 (代表)
 調査第一課長 佐藤 克徳 TEL: 025-521-4540 (調査第一課)
 FAX: 025-522-3866



国土交通省北陸地方整備局

高田河川国道事務所 Tel:025-523-3136(代)

〒943-0847 上越市南新町3番56号 <http://www.hrr.mlit.go.jp/takada/>